

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 16 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K01733

研究課題名(和文) ドイツにおける移民の社会統合の促進とスポーツクラブの役割

研究課題名(英文) Promoting social integration of immigrants and the role of sports clubs in Germany

研究代表者

黒須 充 (Kurosu, Mitsuru)

順天堂大学・スポーツ健康科学研究科・教授

研究者番号：50170121

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：ドイツ全体で移民的背景を持つ約280万人の人々がクラブの会員となっており、全会員の10.1%を占めている。また、ドイツ全体のスポーツクラブの13.5%に当たる約12,300のクラブでは、移民的背景を持つ人々がボランティアとしてクラブの運営に参加している。ドイツ全体の8.4%のクラブにおいては、移民的背景を持つ人々をクラブの会員またはボランティアとして積極的に受け入れるために、特別な措置を講じている。さらに、政治的亡命者や難民の会費を無料にするなど、移民的背景を持った会員を支援・援助しているクラブも多い。このように社会の中での融和を図るために、スポーツクラブは極めて重要な役割を果たしている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究期間中、7つのスポーツクラブを訪問し、理事の方々と地域スポーツクラブの果たす社会的統合の役割と機能について様々な意見交換を行った。その結果、スポーツクラブにおけるスポーツ活動の場が、移民同士または移民と地元住民の会話の場となったり、犯罪等の地域が抱える問題を緩和するきっかけとなったり、相互の文化に対する理解を深める機会や母国から離れて暮らす移民の帰属意識を回帰させる機会になるなど、さまざまな側面において移民同士や移民と地元住民の間に効果をもたらしているという興味深いコメントを聞き出すことができた。

研究成果の概要(英文)：Against the backdrop of growing internationalism in recent years, the role played by sports clubs is becoming increasingly important in terms of integrating immigrants from other countries into society. At sports clubs in Germany, approximately 2.8 million members 10% of the total membership have an immigrant background, and people with an immigrant background are involved as volunteers in the operation of approximately 12,300 clubs 13.5% of all German sports clubs. Moreover, many sports clubs provide support and assistance to members with an immigrant background, such as providing free membership to refugees and political asylum recipients. In this way, sports clubs are playing an extremely important role in achieving integration and harmony within society.

As a result, we were able to hear some deeply interesting comments indicating that sports clubs play an effective role in building harmony from various aspects between immigrants and between immigrants and local residents.

研究分野：スポーツ社会学

キーワード：社会的統合 スポーツクラブ ドイツ スポーツボランティア

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

#### (1) 国内・国外の研究動向

##### 移民とスポーツ

近年注目を集めている「Super Diversity」という用語は、イギリスの社会学者 Steven Vertovec (2007) が、過去 10 年間にイギリスに移住した多起源、多国籍で社会経済的、法律的に層化された民族の動的相互作用によってイギリスの Super Diversity (超多様化) を特徴づけたことが始まりであり、移民や少数民族間だけではなく「増加の多様性」を示し、「多様性の多様化」とも呼ばれる概念である。これまで Super Diversity は経済学 (Spoonley ら, 2009)、教育学 (Sepulveda, 2011)、人口統計学 (Batsleer ら, 2010) といった幅広い研究が行われてきたものの、スポーツに特化したものは数少ない (Fran, 2015)。他国からの移民を社会に統合する上でスポーツクラブが果たす役割や社会的意義に関する論文は見当たらない。その反面、社会的不平等や民族や人種、宗教、性別など特に移民的背景を持った社会的マイノリティーの問題を抱える先進諸国において、スポーツ活動を通じた人々と社会との間の「繋がり」を積極的に構築しようとする試み (プログラムやプロジェクト) が積極的に展開されている (INKLUSION IM UND DURCH SPORT, Positive Futures a sport and activity based social inclusion programme, He Oranga Poutama, etc.)。

##### 社会統合とスポーツ

組織的スポーツにおけるスポーツ活動は必然的に人々が相互に働きかけ合うことを意味している。それだけに組織的スポーツが持っている社会統合能力が以前から公的機関によるスポーツ振興を基礎付ける中心的な理由の一つとなってきたことも驚くには当たらない (Rittner & Breuer, 2004)。国際的な研究も、ドイツの地域スポーツクラブが商業的なスポーツ関連施設に比べて明らかに大きな社会的統合力を持っていることを明らかにしている (Bakken Ulseth, 2004)。だがドイツが移民受入国へと発展を遂げ、ますます国際化することによって (移民がより高い出生率を持っていることもこれと関係している)、従来のように一般的な社会統合が問題となるだけでなく、特に移民に焦点を当てた社会統合がますます重要な問題となっている。Breuer, Wicker and Pawlowski (2008) の研究結果に従うならば、スポーツを通じた社会統合の様子が様々な指標によって計測できるようになっている。たとえば、ドイツ全体で移民的背景を持つ約 280 万人の人々がスポーツクラブの会員となっており、全会員の 10.1% を占めている。また、ドイツ全体のスポーツクラブの 13.5% に当たる約 12,300 のクラブでは、移民的背景を持つ人々がボランティアとしてクラブの運営に参加している。また、ドイツ全体の 8.4% のクラブにおいては、移民的背景を持つ人々をクラブの会員またはボランティアとして積極的に受け入れるために、特別な措置・対策を講じている。さらに、政治的亡命者や難民の会費を無料にするなど、移民的背景を持った会員を支援・援助しているスポーツクラブも多い。このように社会の中での融和を図るために、スポーツクラブは極めて重要な役割を果たしている。

##### ドイツオリンピックスポーツ連盟 (DOSB) の取り組み

アルフォンス・ヘアマン DOSB 会長は、「スポーツこそが文化的違いを超えて人々を結びつけ、社会の結束を強める。DOSB には社会的責任がある。私たちはスポーツの持つインテグレーション (統合、融合) の力を使う。DOSB はスポーツによるスポーツでの避難民たちのインテグレーションを課題としていく」と述べている。また、DOSB は 2015 年 12 月の総会で「スポーツ国ドイツ (Sportdeutschland) における避難民」という声明を全員一致で採決した。地域のスポーツクラブもインテグレーション活動を担う。スポーツクラブなどのインテグレーション活動がまとまりをもって実施されるよう、DOSB は外務省の補助金を得て専門の職員を配置することにした。さらに、スポーツクラブが難民対象のインテグレーション活動をするにあたって法律と税に関して知るべきことをまとめたパンフレットを作成した。本研究では DOSB の加盟団体であるノルトライン・ヴェストファーレン州スポーツ連盟やケルン市スポーツ連盟が傘下のスポーツクラブと共同で実施する「スポーツを通じた社会統合」の事例についても調査し、実態を把握する。

### 2. 研究の目的

本研究では、全人口の 21% が移民的背景を持つ移民大国ドイツにおける移民の社会統合の促進と地域スポーツクラブの役割について明らかにすることを目的とする。また、ノルトライン・ヴェストファーレン州スポーツ連盟やケルン市スポーツ連盟が様々な民族に対応しながら、スポーツ参加の機会を提供している事例についても調査し、実態を把握する。さらに、そうした分析を通し、グローバル化する日本社会とスポーツとの新たな関係性に関する知見を得るとともに、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックやポスト五輪を見据えた多文化共生社会の実現に資する基礎的資料を得ることを目的とする。

### 3. 研究の方法

ケルン市には 860 のスポーツクラブ、約 19 万 5 千人の会員が登録されている。人気スポーツであるサッカー、テニス、ハンドボールからジャズダンス、体操、水泳、柔道、身障者バスケットボール等 56 種目に及び各競技が連盟に登録されている。本研究では、ケルン市のスポーツクラブを対象にアンケート調査を行い、ドイツにおける移民の社会統合と地域スポーツクラブの役割について検討する。

研究計画の作成や中間及び最終報告書の作成は主に研究代表者が行うが、調査の実施に当たっては、ケルン体育大学のクリストフ・プロイアー教授に協力を求めた。

#### 4. 研究成果

##### (1) 会員に占める移民的背景を持った人の割合

近年の国際化を背景として、他国からの移民を社会に統合するという点でスポーツクラブの果たす役割が益々重要になっている。これもスポーツクラブの公共の福祉に対する貢献の一面を表している。ドイツのスポーツクラブでは、全会員の 10% に当たる約 280 万人の移民的背景を持っている人々を会員として抱えている。ただし、他国からの移民を背景に持っている人々がドイツ全体で 18.4% を占めていることに照らして見ると、スポーツクラブに占める移民的背景を持った人の割合（ドイツ全体を 1 とすればスポーツクラブに占める移民的背景を持った人の割合は 0.64 である）はその値を下回っている（表 1 を参照）。

表 1 スポーツクラブと他国からの移民を背景に持っている人々

会員に占める移民的背景を持った人の割合 (%)	10.1
クラブ会員となっている移民的背景を持った人の人数	2,760,000
ドイツ全体の移民割合を 1 とした場合のクラブに占める移民割合	0.64

##### (2) ボランティアに従事する移民的背景を持った人々の割合

ドイツのスポーツクラブにおける社会統合機能を測る重要な指標は、クラブ・ボランティアの存在である。ドイツ全体のスポーツクラブの 13.5% では移民的背景を持つ人々がボランティアとして運営に協力している（表 2 を参照）。ポジション別に見てみると、スポーツ指導レベル（例えばコーチ、指導者、審判員）でボランティアに従事している人の割合が、理事レベルでボランティアに従事している人の割合を上回っている。全スポーツクラブの約 10%（9.9%）でスポーツ指導レベルのボランティアに従事する移民的背景を持った人々が、7.4% で理事レベルのボランティアに従事している移民的背景を持った人々が活動している。一クラブ当たりで占める移民的背景を持ったボランティアの人数（平均値）は合計で 0.6 人、そのうち理事レベルのボランティアが 0.2 人、スポーツ指導レベルのボランティアが 0.4 人である（表 2 を参照）。

表 2 ポジション別に見たボランティアに占める移民的背景を持った人の割合

	クラブの割合 (%)	クラブ数	移民の人数 (平均値)	移民の人数 (合計)
理事レベルのボランティア	7.4	6700	0.2	16900
スポーツ指導レベルのボランティア	9.9	9000	0.4	38100
合計 (兼務含む)	13.5	12200	0.6	55000

##### (3) 移民的背景を持った人々を受け入れるための特別な措置

ドイツのスポーツクラブの 8.4% に当たる 7,600 のクラブでは、移民的背景を持った人々を会員として受け入れる（統合する）ための特別な措置を講じたり、イニシアチブをとったりしている。特別な措置を講じているクラブの約 60%（59.7%）は、移民融和のための行動月間や行動週間という企画やスポーツ交流大会、意見交換会などの特別プログラムを実施している。また、特別な措置を講じているクラブの約 30%（30.2%）は、オリエントダンスや女性だけの水泳、移民会員限定のトレーニングコースなどを設定している。さらに約 30%（29.7%）のクラブでは、様々なやり方（例えば政治的亡命者や難民の会費を無料にするなど）で移民的背景を持った会員を支援・援助している。その他、移民的背景を持った人々を対象としたイベントや研修セミナーの開催、反人種主義的キャンペーンなど、移民的背景を持った会員を統合するための特別な措置やイニシアチブが行われている（表 3 を参照）。

表3 移民的背景を持つ人々をクラブに統合するための特別な措置

	特別な措置を講じているクラブの割合(%)	全スポーツクラブの中に占める割合(%)
特別プログラムの実施	59.7	5.0
移民的背景を持った会員限定のコースなどを設定	30.2	2.5
支援や援助	29.7	2.5
移民的背景を持った会員の研修やスタッフへの雇用	12.3	1.0
ねらいを明確にした話し合い	9.1	0.8
公的な諸機関との連携・協力	7.1	0.6
社会的なコンタクトの構築	3.9	0.3
反人種主義的なキャンペーン	3.7	0.3
移民的背景を持った人のためのクラブ	1.5	0.1
その他	17.9	1.5

(4) 会員に占める移民の割合が高いクラブと低いクラブの問題状況

会員に占める移民の割合が高いスポーツクラブ(移民的背景を持った会員が20%以上)は、そうでないクラブ(移民的背景を持った会員が20%未満)に比べ、「地域の人口変動」や「若い競技スポーツ選手の維持・獲得」という問題は、あまり深刻な状況ではないことがわかる(表4を参照)。一方、「ボランティアの維持・獲得」や「指導者の維持・獲得」という問題は、会員に占める移民の割合が少ないクラブに比べ、より深刻さの度合いが大きい。

表4 会員に占める移民割合の高いクラブと低いクラブの問題状況

	移民割合の高いクラブ	移民割合の低いクラブ
地域の人口変動(***)	2.25	2.40
会員の維持・獲得(ns)	2.64	2.63
若い競技スポーツ選手の維持・獲得(*)	2.97	3.06
指導者の維持・獲得(**)	3.10	2.99
ボランティアの維持・獲得(***)	3.49	3.25

(5) クラブ支援の重要性

会員に占める移民の割合が高いクラブ(基準:移民的背景を持った会員が20%以上)は、州スポーツ連盟が行っている種々の支援事業をたいへん重要であると評価する傾向にある。特に、「マーケティング・スポンサーシップに関する情報提供と相談」、「指導者の養成と研修」、「学校とクラブとの連携に対する支援」、「会員の維持・獲得に関する情報提供と相談」の分野に関する支援が重要であると考えている。また、その他の多くの支援のあり方についても同様に重要であると評価する傾向が強く、こうしたクラブにおいては、単に移民的背景を持ったグループに重きを置くだけではなく、ボランティアに従事する人々そのものが多文化から構成されていることもその原因の一つかも知れない。

そうした意味で、移民的背景を持った人を一人でも多くスポーツクラブに統合することを政策目標に掲げた場合、会員に占める移民の割合が高いクラブに対して、スポーツ連盟やスポーツ団体を通して、集中的かつ特別な支援を強化することによって、その政策目標は効果的に実現されるであろう。

(6) 州スポーツ連盟のクラブ支援に対する評価

スポーツクラブにおける移民的背景を持った人々の統合に関して、州スポーツ連盟は、スポーツにおける社会福祉的活動や移民統合に関する情報提供や相談などの特別プロジェクトを通して支援・援助している。ドイツ全体のスポーツクラブの平均を見ると、こうした支援に対してそれほど高い評価をしていないことがわかる。しかし、会員に占める移民の割合が20%を超えるスポーツクラブの場合、そうした支援の意味が高くなっていく。さらに、移民的背景を持った人々の統合に関して特別な措置を行っているクラブであれば、そうした支援に対してより重要であると評価する傾向がある。

(7) 移民受け入れの経営戦略

マネジメントに関する問題は、スポーツクラブが移民的背景を持った人々を受け入れることが、スポーツクラブにとってどの程度の利益につながるかに関心が集まっている。データマイニング分析(表5を参照)によれば、会員に占める移民の割合の高いクラブとそうでないクラブを区別する一番の要因は、移民統合に関する特別な措置や対策を実行しているかどうかである。特別な措置を講じているクラブでは、会員に占める移民の割合が21.1%であるのに対し、特別な措置を講じていないクラブの移民の割合は9.8%である。しかしながら、特別な措置を講じることによって移民の割合が高まるのか、それとも移民の割合が高いことから特別な措置を講じているの

かは明らかにされていない。おそらく、どちらにしても両者が相互に作用することによって移民会員の獲得促進につながっていることは間違いない。

さらにクラブ会員に占める移民比率の高さを規定する重要な要因は、ボクシング、キックボクシング、柔道、柔術、合気道、武道、空手、テコンドー、太極拳などの格闘技系の種目を有しているかどうかである。このように移民的背景を持った会員にとって、格闘技系のスポーツは魅力的であることがわかる。クラブマネジメントの観点から見ると、特別な措置を講じることや格闘技系のスポーツを提供することが移民的背景を持つ会員の獲得に有効であることを意味している。また、表5から、サッカーの提供が格闘技と同じような効果を持っていることがわかる。

表5 クラブ会員に占める移民的背景を持った人が占める割合

A:	移民統合に対する特別措置を実施していない、州の在住外国人比率が4.1%以下、格闘技系の種目を有していないクラブ
B:	移民統合に対する特別措置を実施していない、州の在住外国人比率が4.1%より大きく、格闘技やサッカーの種目を有していないクラブ
C:	移民統合に対する特別措置を実施していない、州の在住外国人比率が4.1%以下、格闘技系の種目を有しているクラブ
D:	移民統合に対する特別措置を実施していない、州の在住外国人比率が4.1%より大きく、サッカーの種目を有しているクラブ
E:	移民統合に対する特別措置を実施していない、州の在住外国人比率が4.1%より大きく、格闘技系の種目を有し、かつサッカーの種目がないクラブ
F:	移民統合に対する特別措置を実施しているクラブ

以下、移民的背景を持った人を受け入れるための特別措置について、自己評価してもらったところ、「移民的背景を持った人のためのクラブ」、「公的な諸機関との連携（例：青少年局）」「移民的背景を持った会員の研修の機会やスタッフへの登用」などの項目に対する評価が高く、スポーツクラブにおける社会統合を促進する上で有効であることがわかる。また、その他の項目に関しても一定の効果が認められることから、移民的背景を持った人をスポーツクラブに受け入れるためには、信頼できるツールであると言える。

表6 移民的背景を持った人を受け入れるための特別措置の評価

（評点は、「1 = とても効果があった」から「6 = 全く効果がなかった」までの6段階評定）

	評点
移民的背景を持った人のためのクラブ	1.56
公的な諸機関との連携・協力	1.75
移民的背景を持った会員の研修やスタッフへの雇用	1.82
反人種主義的なキャンペーン	1.97
支援や援助	2.04
移民的背景を持った会員限定のコースなどを設定	2.22
特別プログラムの実施	2.26
ねらいを明確にした話し合い	2.35
社会的なコンタクトの構築	2.39

<まとめ>

研究期間中、7つのスポーツクラブを訪問し、理事の方々と地域スポーツクラブの果たす社会的統合の役割と機能について様々な意見交換を行った。その結果、スポーツクラブにおけるスポーツ活動の場が、移民同士または移民と地元住民の会話の場となったり、犯罪等の地域が抱える問題を緩和するきっかけとなったり、相互の文化に対する理解を深める機会や母国から離れて暮らす移民の帰属意識を回帰させる機会になるなど、さまざまな側面において移民同士や移民と地元住民の間に効果をもたらしているという興味深いコメントを聞き出すことができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Kurosu, M and Mizukami, H.	4. 巻 17
2. 論文標題 Complementary Relationship Between the Japan Sports Association and an Information Network Support Non-profit Organization: Focusing on the Public Sphere Created Through the Relationship Between “Mobilization” and “Symbolic Movements.”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J. Sport Health Sci.	6. 最初と最後の頁 54, 62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5432//jjpehss.16092	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 水上博司・黒須 充	4. 巻 -
2. 論文標題 総合型地域スポーツクラブと情報ネットワーク支援 NPO の関係性から 形成された社会関係資本: 東日本大震災の支援寄付をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 体育学研究	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5432/jjpehss.17145	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 黒須 充、茨田 忍	4. 巻 1
2. 論文標題 ドイツにおける移民の社会統合の促進とスポーツクラブの役割	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 平成29年度SSC大泉活動状況報告	6. 最初と最後の頁 14-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------